

## 実態を伝えなかつたラジオ、新聞

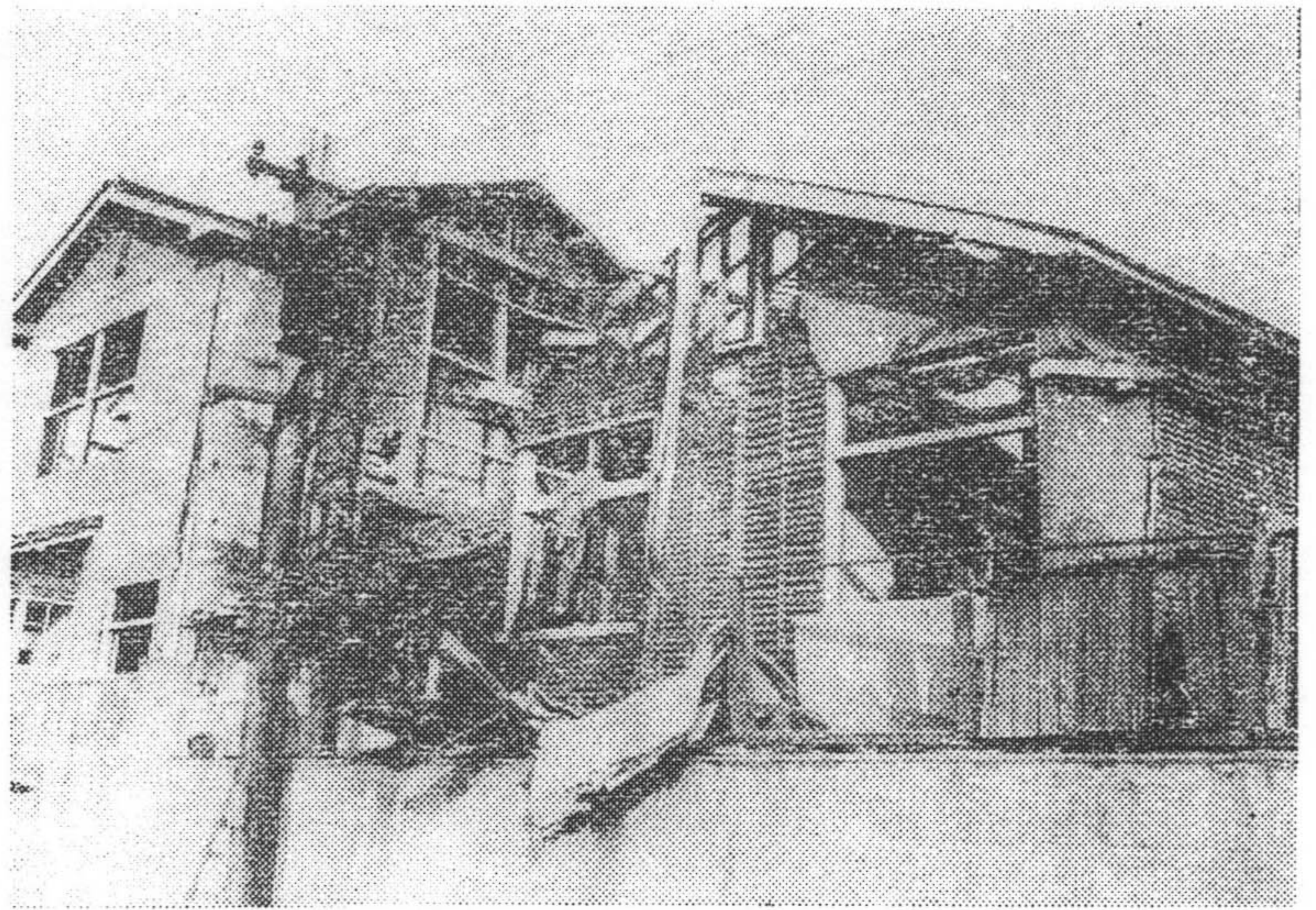
町田トシ子

「京の人は爆撃を知らないですんだ。」と今でも信じている人が多いだろうが、実は敗戦の年の一月に京の東山区に落とされた。当時私は妙法院前側町に住んでいたのだが、その妙法院の門跡さんのお室の裏のもうそう竹が微塵になっていたのを記憶している。

その当時よく、関東地方だったろうか、地震があつておびえる夜が続いていたので、それまで一家は二階の南側の室で窓に頭を向けて寝ていたのだが、万一を思つて北側に頭を変えて寝るようになっていた。その向きを変えて五日とたたぬうちだった。それをしていなかったらガラスの破片できつと頭にけがをしただらう。

あれは一月一六日の夜だったろう。しきりに飛行機が騒ぐので、夢の中で、日本軍の猛烈な演習とばかり思つて、「寒いのに、ご苦労です」と思ったとたん、ピシヤリとひどい音がしてすぐ人の声が騒がしくなったので、北側の窓へ走り寄つて見ると、山手に火の手があがつた。その窓は、破れていなかったので、開けることができたが、私どもが寝ていた南側の窓はねじれて、ふとんの上にはガラスの破片がいっぱい散らばり、それが寝ている胸の上までとんでいたので、向きを変えないであのままにいたら、頭も顔も傷だらけのはずだった。

加古川の電信隊に入隊のきまつていた一九才の息子はすぐに巻ゲートルを巻いて、平安中学



馬町三嶋神社南入現京都幼稚園

のカーキ色の制服をつけて町内の屯所へ出て行って、夜が明けても戻ってこなかった。私と娘とは吹きさらしの室の中でガラスや、こわれた窓わくを片づけたり、空襲警報の時の遮蔽幕しゃへいを張りまわして外気を防いだりしておいてから階下へおりると、玄関の上り口のくつぬぎを飛び越えた板が玄関の床下の泥や小石を見せていた。青年団で一働きして帰って来た息子は、「えらいこっちゃで、この上の方は、腹わたが飛び出した人が何人もいたわ。こここの入口の家三軒ペチャンコになってるぜ。一人で住んでた人、あったやろ。あのおばはん屋根をえぐられて、頭半分屋根と一緒にえぐられて死んでしまったわ。もう、もう、僕ら死体を集めながら吐はきとうなったよ。妙法院が死体収容所になってる。京女の寄宿舎もペチャンコやが屋根は大丈夫だったから、けが人はなかった。」

音羽園というこの私たちの路地は、東西の入口出口をヘルメットに腕章をつけた人びとで固められ、出入を禁じられ、被災者への炊き出しのおにぎりもこの人たちの采配さいはいで配られ、入浴券までもらって、すっかり被災者生活が四、五日続いたようだった。ふしぎなことは、ラジオも新聞もなりをひそめてしまったことだった。秘密を守り続けねば

ならなかった。そのうちに、うわさによれば、西陣の一部も爆撃されて、死体がトラック三台で運ばれたということだったが、これもうわさを聞くだけでその実態は発表されなかった。

(昭和四七年一二月七日付手紙から)

### 決戦非常日記 (抜すい)

須賀隆賢

昭和二〇年一月一六日 (火) 晴 寒

登校、授業。午後三時近く下校。五時近く帰宅。

十四日、敵機伊勢外宮豊受大神聖域へ爆弾投じ、神楽殿、神舎など六、七棟被害。ご本殿安泰。いよいよ思想戦となった。国体概念にひびを入れ、神国への自信を破壊しようとする不逞暴虐の拳に出たのだ。万邦無比、国体の破却をめざしていることは明白だ。

一六日夜分一一時半ごろ、突然、ブルンブルンと異常な飛行機のうなりが聞こえる。これが地ひびきをたてて、旋回しているらしい。これは敵機、はて、警報も出てないが。とびおきて



空を見る。星がふっている。ところが、ドカンドカン。ブルブルブルとガラス戸が大震動。これはと思ひ表へ出たが、もう何事もなく静まりかえって別条はないがなと入って寝たところへ、警報が出た。一機、三重から脱去……。

一月一七日

今朝学校へ行くと、東山学区内爆弾投下、被害とのよし。渋谷道だとのこと。そのうちに四年本江源一が傷害、二年井上孝哉が重傷との報。いよいよ大変と、午後石井、貫井と三人見舞、視察。防空用員章がものをいって入った。女専第一小松寮の一つがやられている。幼稚園がひどい。柴垣妙子は第三寮で無事。井上と本江の家のまん前にドカンと落ちた。近所はこっぱみじん。目もあてられぬ。ちょうど本江の兄のかたが元気で、あと片づけ中。ばあさんレキが重傷で府立病院。女の子（七つ）即死。井上は父負傷、母重傷。本人は、頭と左足の骨が折れた。妹が腹部貫通で即死。その間に寝ていた小さい妹は微傷もないと。その辺一带家屋倒壊。少し東、火災で焼けている。北側は爆風で戸、障子めっちゃめっちゃ。ガラスこなごなでみじん。電車道の北へも一個落ち、相当被害。女学校、修道校、ガラス惨憺<sup>たん</sup>、各教室惨憺たるもの。死者も三、四〇はあろう。傷者は数倍か。京都最初の空爆である。これで市民も覚醒するだろう。この夜は暗かった。

（当時東山中学校長）